

2016年3月期 決算説明会

2016年 6月 3日

 日本山村硝子株式会社

目次

I 2016年3月期 連結業績概要

II 2017年3月期 連結業績予想

III 中期経営計画進捗状況

IV トピックス

目次

I 2016年3月期 連結業績概要

II 2017年3月期 連結業績予想

III 中期経営計画進捗状況

IV トピックス

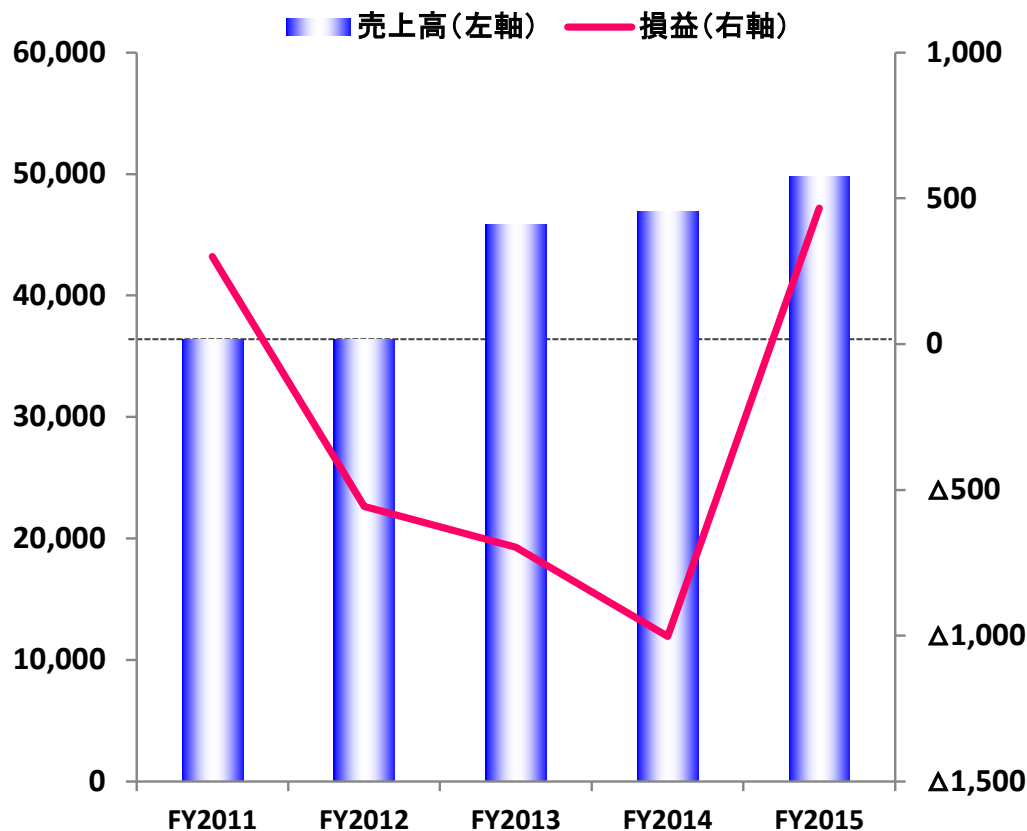
連結決算ハイライト

百万円	2014年度	2015年度	増減額	増減率
売上高	70,161	70,456	+295	+0.4%
売上総利益	11,518	13,268	+1,750	+15.2%
営業利益	△850	1,246	+2,096	—
経常利益	△209	2,113	+2,322	—
親会社株主帰属 当期純利益	5,419	1,139	△4,280	△79.0%

- ガラスびんセグメント、ニューガラスセグメントが牽引し、増収を達成
- 営業利益は、事業構造改革によるコスト削減、原燃料費の低位安定により、3期ぶりの黒字化を達成
- 当期純利益は、前年度に旧大阪工場の売却益を計上したことから、大幅に減益

ガラスびんセグメント

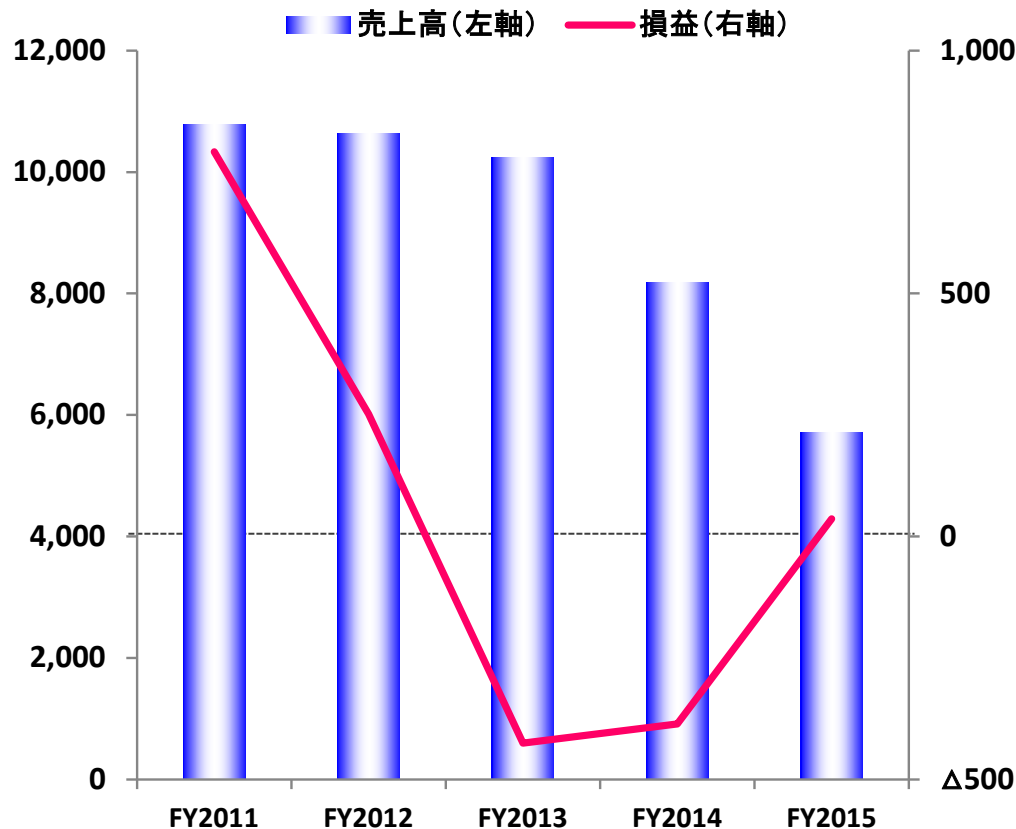
百万円	2014年度	2015年度	(増減額)	(増減率)
売上高	46,904	49,793	+2,889	+6.2%
セグメント損益	△1,002	466	+1,468	—



- 海外子会社において、輸出が米国向けを中心として大幅に伸張、国内事業も堅調に推移し、増収を達成
- 損益は、国内燃料価格の低位安定に加え、海外子会社の採算が大幅に改善したことにより、**4期ぶりに黒字化**を達成

プラスチックセグメント

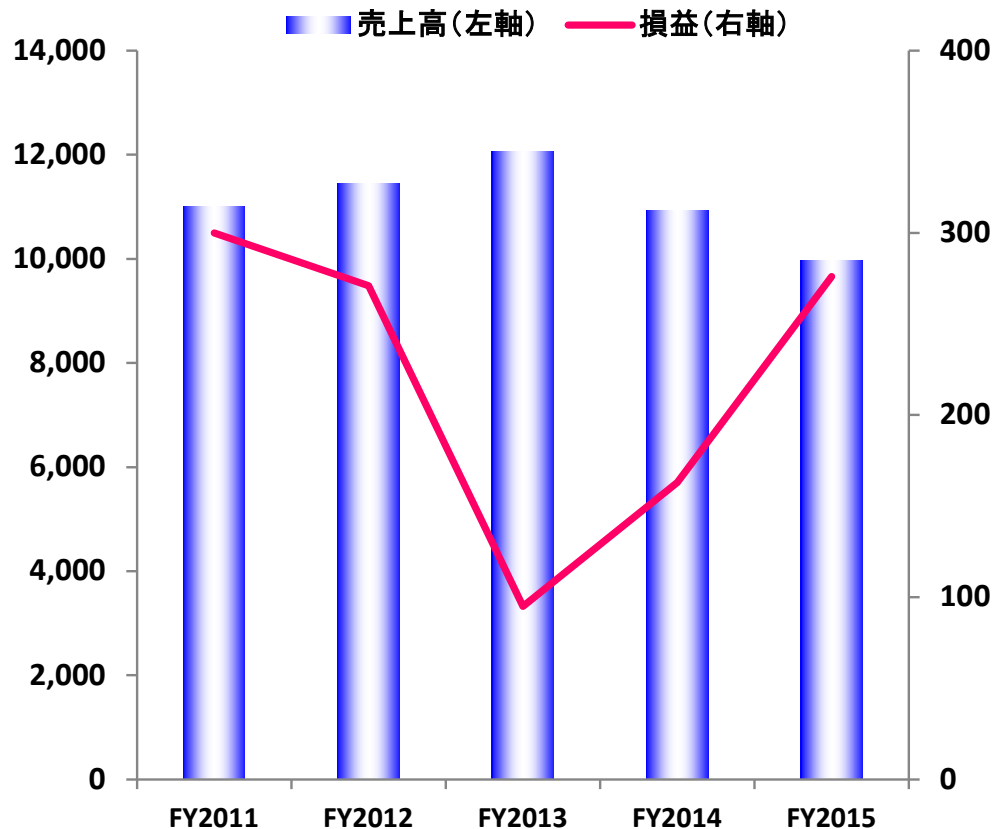
百万円	2014年度	2015年度	(増減額)	(増減率)
売上高	8,176	5,710	△2,466	△30.2%
セグメント損益	△386	36	+422	—



- ペットボトル事業からの撤退により大幅に減収、キャップ事業は国内外ともに堅調に推移
- 損益は、事業構造改革によるコスト削減、ナフサ価格の低下により、**3期ぶりに黒字化**を達成

物流セグメント

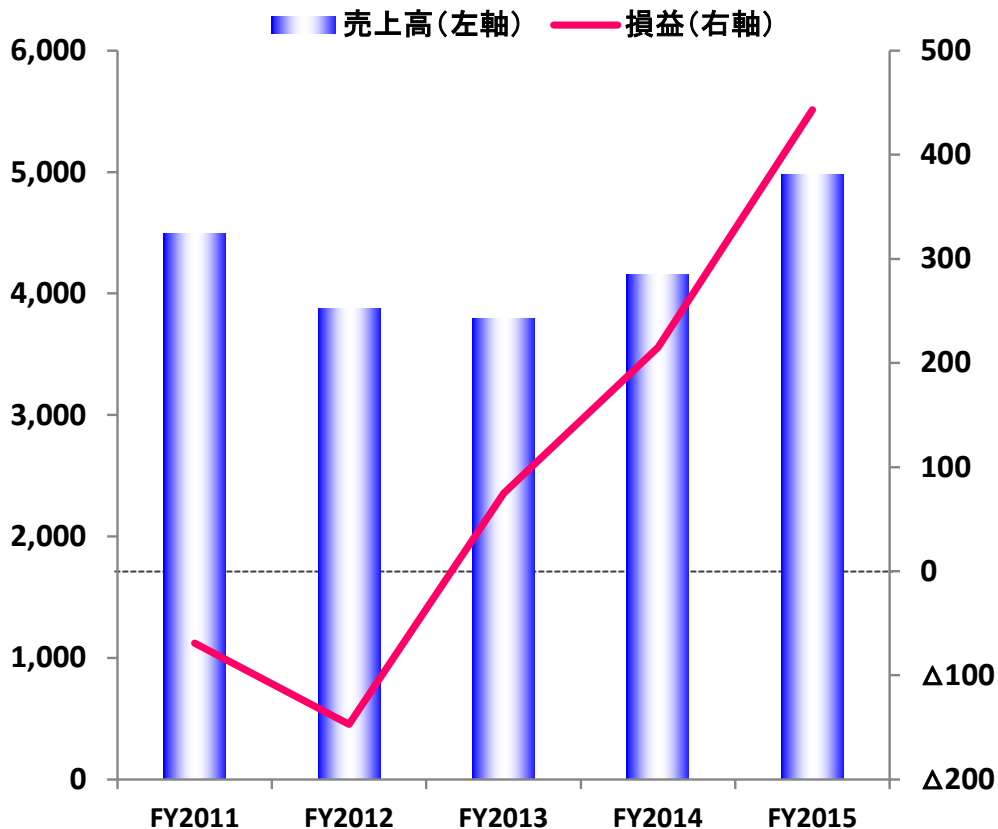
百万円	2014年度	2015年度	(増減額)	(増減率)
売上高	10,918	9,969	△949	△8.7%
セグメント損益	163	276	+113	+69.3%



- 既存営業所の閉鎖、取扱い物量の減少により減収
- 損益は、不採算営業所からの撤退、取引条件の改定等により回復基調

ニューガラスセグメント

百万円	2014年度	2015年度	(増減額)	(増減率)
売上高	4,162	4,982	+820	+19.7%
セグメント損益	215	443	+228	+106.0%



- 国内外向け光通信用部品が大幅に伸張
- 損益は、増収効果に加え、生産効率の改善により、**3期連続増益**を達成

連結貸借対照表－資産の部

	2014年度末	2015年度末	(増減額)	
流動資産	46,152	45,457	△695	
現金及び預金	14,843	14,061	△782	
受取手形及び売掛金	19,947	19,739	△208	
たな卸資産	10,075	9,691	△384	
その他	1,307	2,035	+728	
貸倒引当金	△21	△70	△49	
固定資産	61,323	61,855	+532	
有形固定資産	28,740	30,345	<u>+1,605</u>	ガラスびんセグメント における設備更新
無形固定資産	4,136	3,651	△485	
投資その他の資産	28,447	27,858	△589	
投資有価証券	4,484	4,437	△47	
関係会社株式	22,278	21,795	<u>△483</u>	持分法損益による増、 円高による海外関連 会社評価減
その他	1,714	1,644	△70	
貸倒引当金	△29	△19	+10	
資産合計	107,476	107,312	△164	

連結貸借対照表－負債・純資産の部

	2014年度末	2015年度末	(増減額)
流動負債	25,758	26,046	+288
支払手形及び買掛金	8,075	9,159	+1,084
短期借入金	11,426	10,111	<u>△1,315</u>
その他	6,256	6,775	+519
固定負債	20,475	21,319	+844
長期借入金	13,641	12,222	<u>△1,419</u>
その他	6,834	9,096	+2,262
負債合計	46,234	47,366	+1,132
株主資本	57,170	57,782	+612
資本金	14,074	14,074	0
資本剰余金	17,300	17,300	0
利益剰余金	27,023	27,637	+614
自己株式	△1,227	△1,230	△3
その他の包括利益累計額	3,540	1,701	<u>△1,839</u>
非支配株主持分	530	462	△68
純資産合計	61,242	59,946	△1,296
負債・純資産合計	107,476	107,312	△164

社債・リース
を含む有利子
負債としては
△1,492

円高による為替換算
調整勘定減

目次

I 2016年3月期 連結業績概要

II 2017年3月期 連結業績予想

III 中期経営計画進捗状況

IV トピックス

連結業績予想

前年差セグメント別内訳

【売上高】

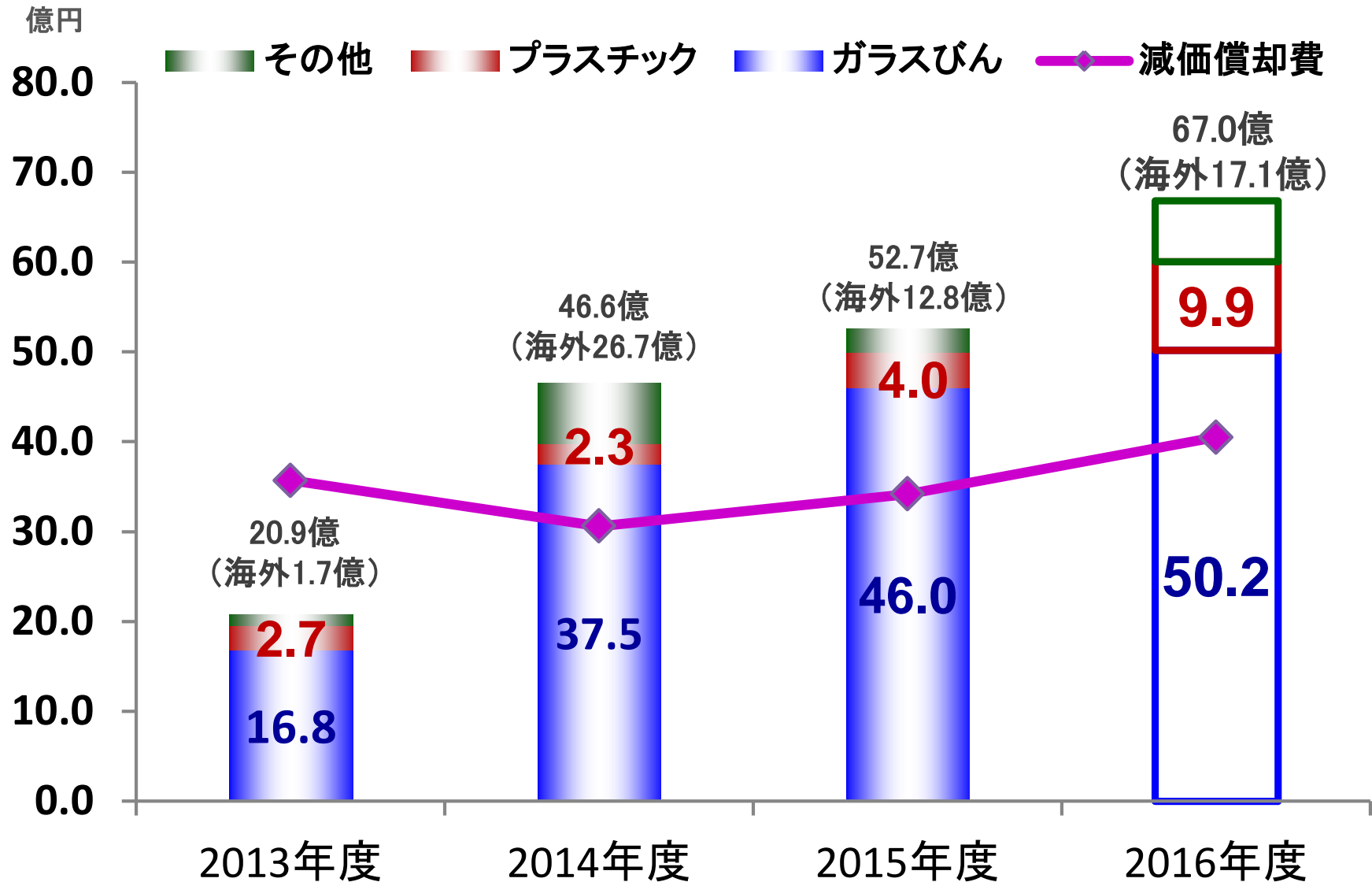
- ◆ガラスびん $\Delta 7.9$ 億
- ◆プラスチック $\Delta 1.1$ 億
- ◆物流 $+2.3$ 億
- ◆ニューガラス $+12.1$ 億

【経常利益】

- ◆ガラスびん $+4.3$ 億
- ◆プラスチック $\Delta 0.7$ 億
- ◆物流 $\Delta 1.0$ 億
- ◆ニューガラス $+1.0$ 億
- ◆持分法 $\Delta 0.4$ 億
- (全社共通) $\Delta 2.4$ 億

億円	2015年度 実績	2016年度 予想	前年差
売上高	704	710	+5.4
営業利益	12	15	+2.5
経常利益	21	22	+0.8
親会社株主帰属 当期純利益	11	16	+4.6

連結設備投資計画



国内は生産効率改善、海外は成長戦略実現のため、引き続き積極的に投資 13

配当予想

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
年間配当金	5.5円	5.0円	5.0円	5.0円	5.0円
連結配当性向	276.4%	—	9.7%	46.1%	32.8%



引き続き、安定した配当を実現するとともに、企業価値を向上すべく、収益基盤の強化、成長戦略実現のための投資を積極的に行う方針

目次

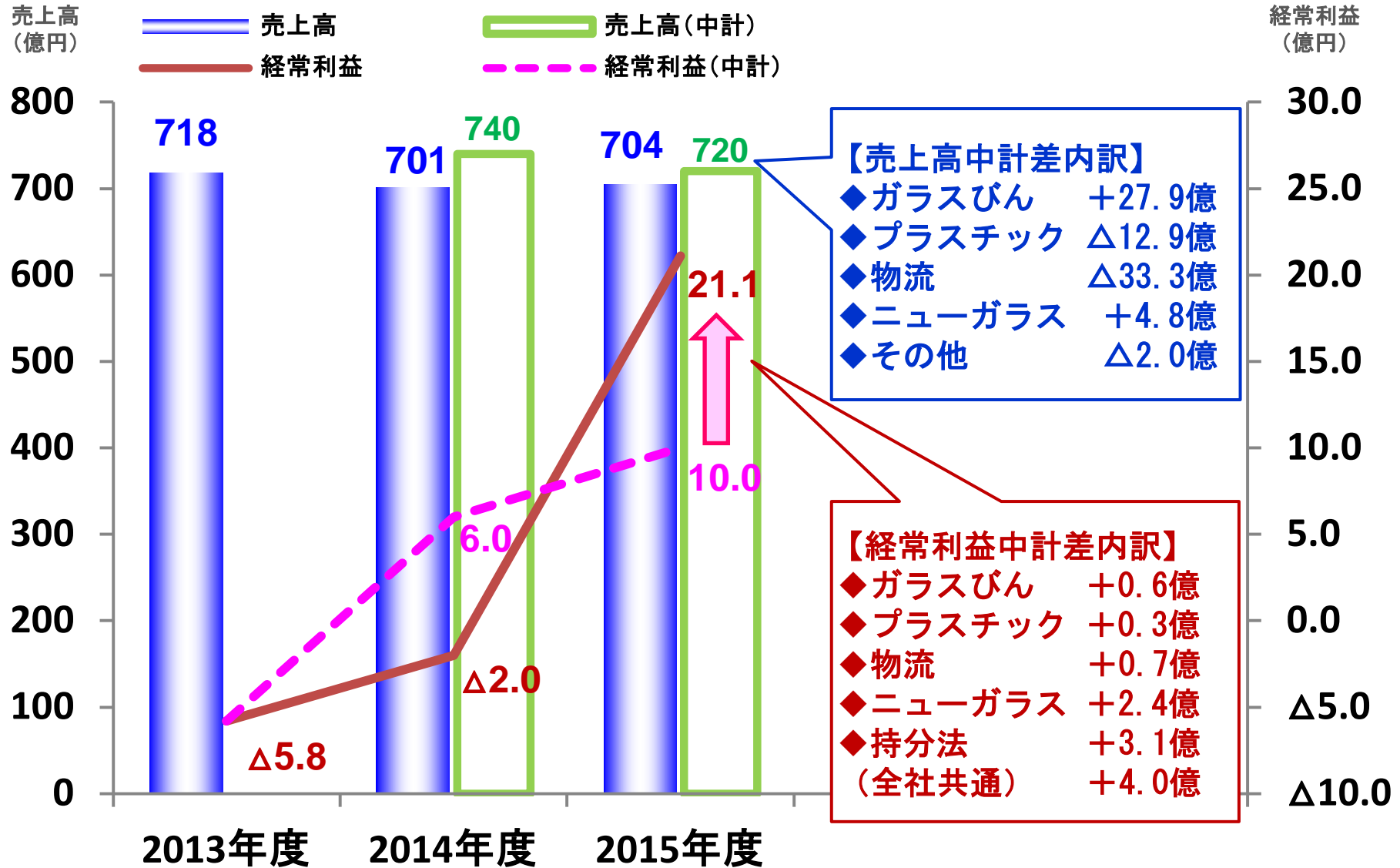
I 2016年3月期 連結業績概要

II 2017年3月期 連結業績予想

III 中期経営計画進捗状況

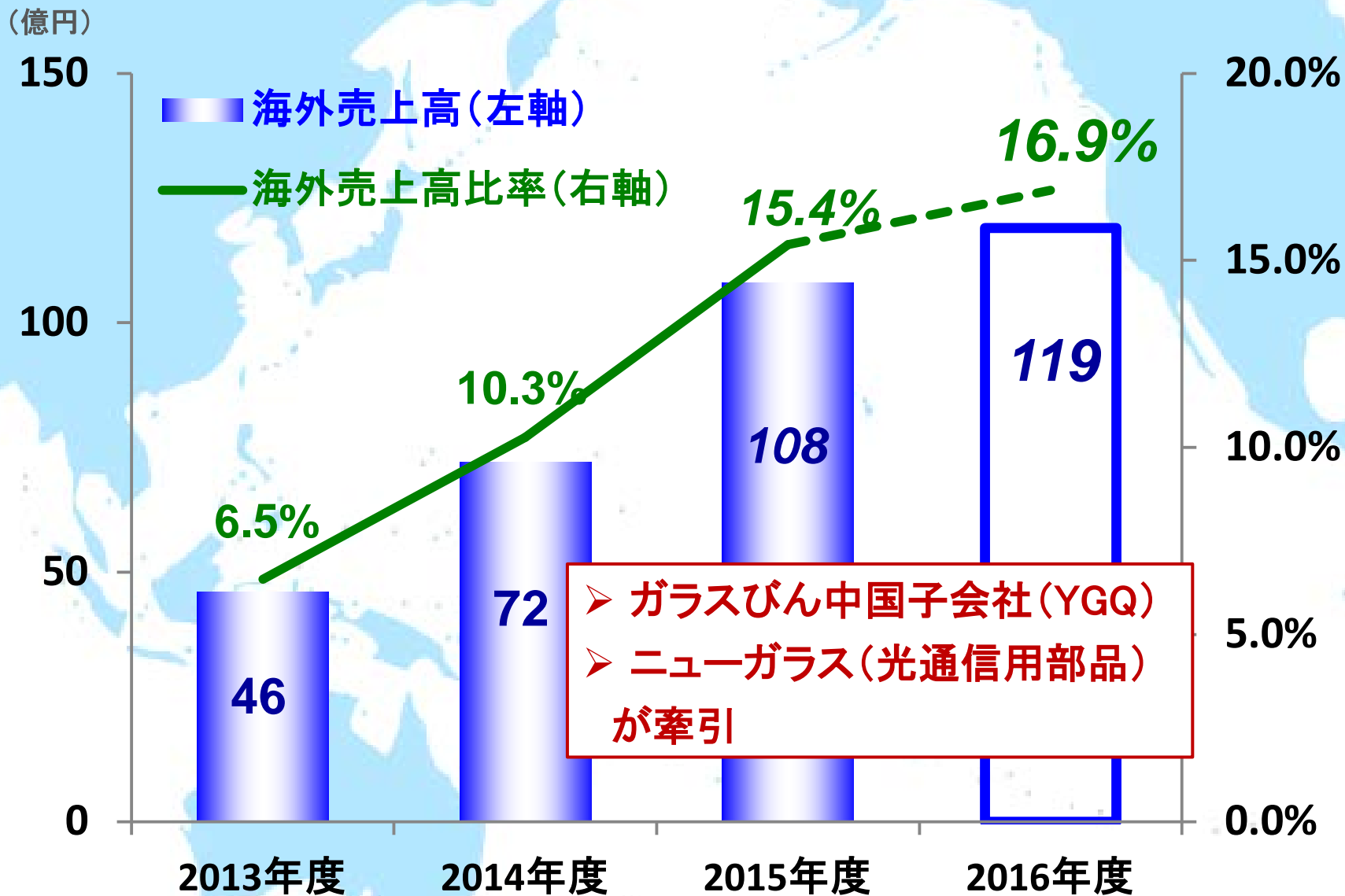
IV トピックス

連結業績推移



※中計:2014年6月5日公表数値

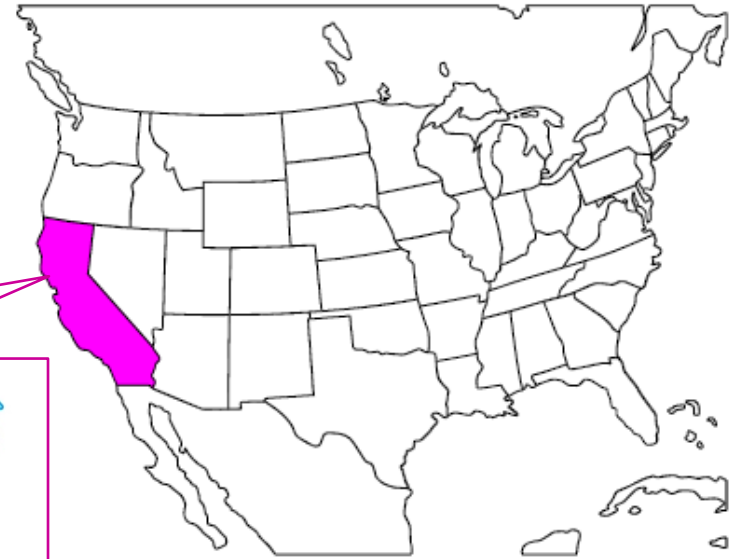
成長戦略－海外事業進捗



「海外売上高」：日本からの輸出 及び 日本国外における売上

成長戦略－米国子会社設立

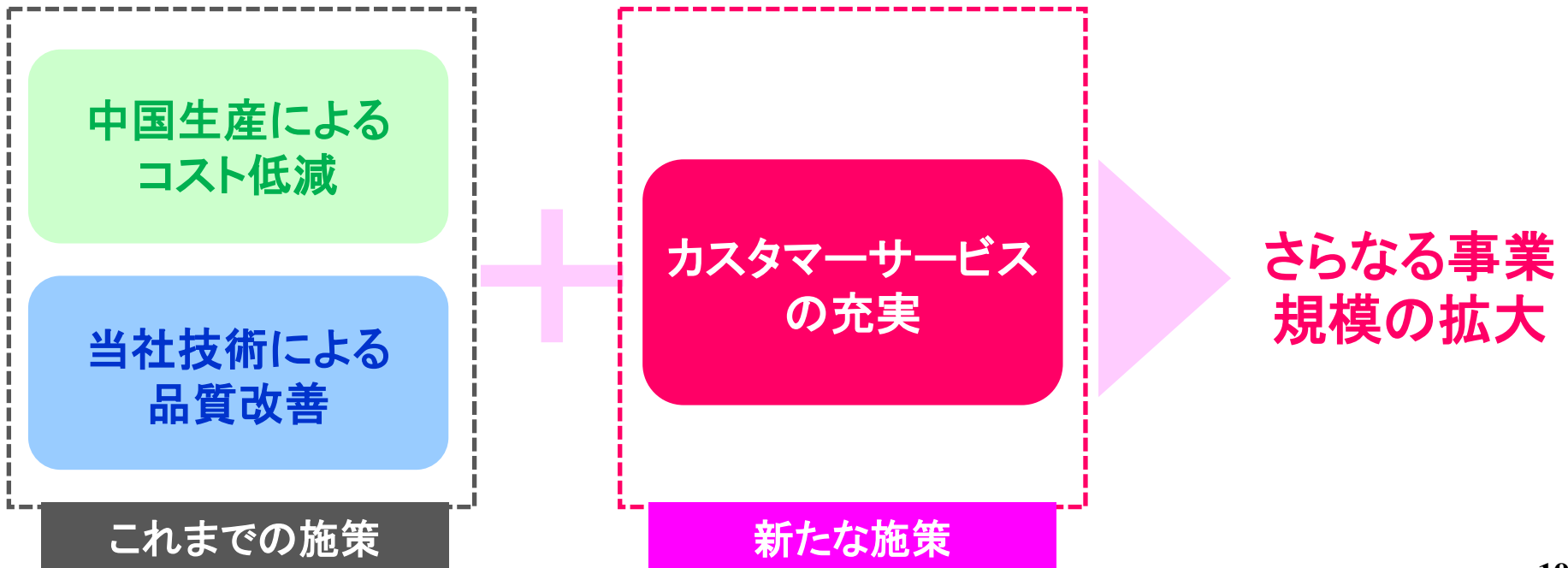
会社名： YGQ California, Inc.
 所在地： 米国カリフォルニア州ナパ
 事業内容： 米国顧客向けカスタマーサービス
 資本金： 10万米ドル(約11百万円)



- カリフォルニア州には、4,000を超えるワイナリーがひしめき合い、米国ワインの9割がカリフォルニアで生産される
- 特にナパはカリフォルニアワインの有数の産地

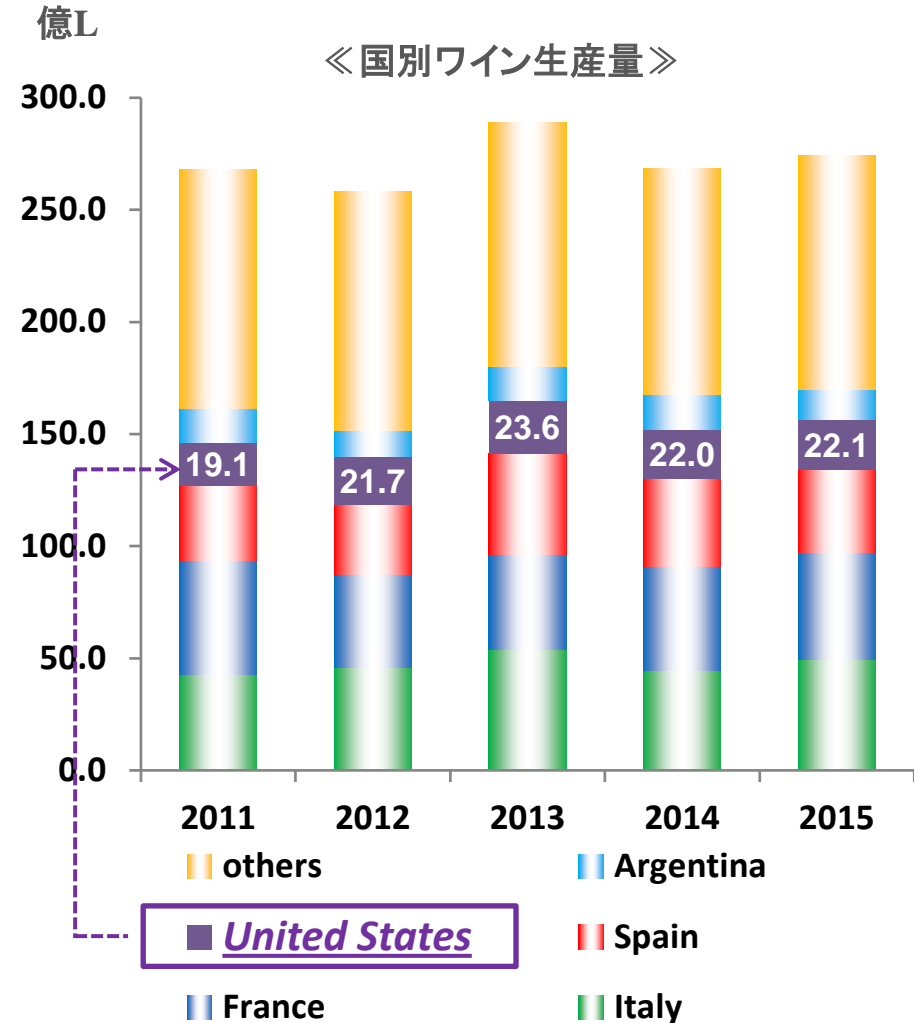
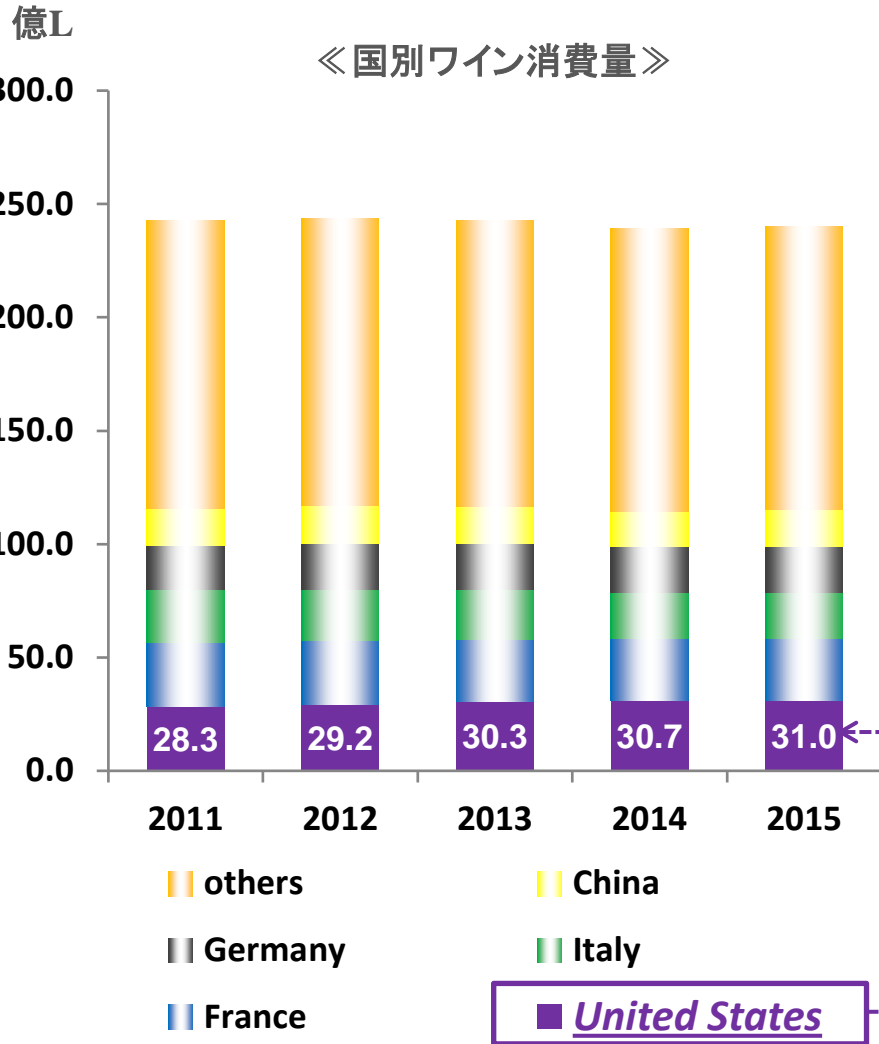
成長戦略－米国子会社設立の狙い

- 現在、YGQから米国へ輸出しているのは、ワインびんがメイン(2015年度販売実績 34億円)
- 北米ガラスびん市場(米国が約6割)は、2020年までに年率3%の成長が見込まれている
- 米国ガラスびん市場は、「Owens-Illinois」「Ardagh」の2社が大きなシェアを占めているため、価格は高止まりする傾向にあり、品質とコストを武器にシェア拡大の余地がある
- 地理的に近い場所にオフィスを構えることで、品質保証等のカスタマーサービスを充実させることができ、顧客満足度の向上を図ることができる

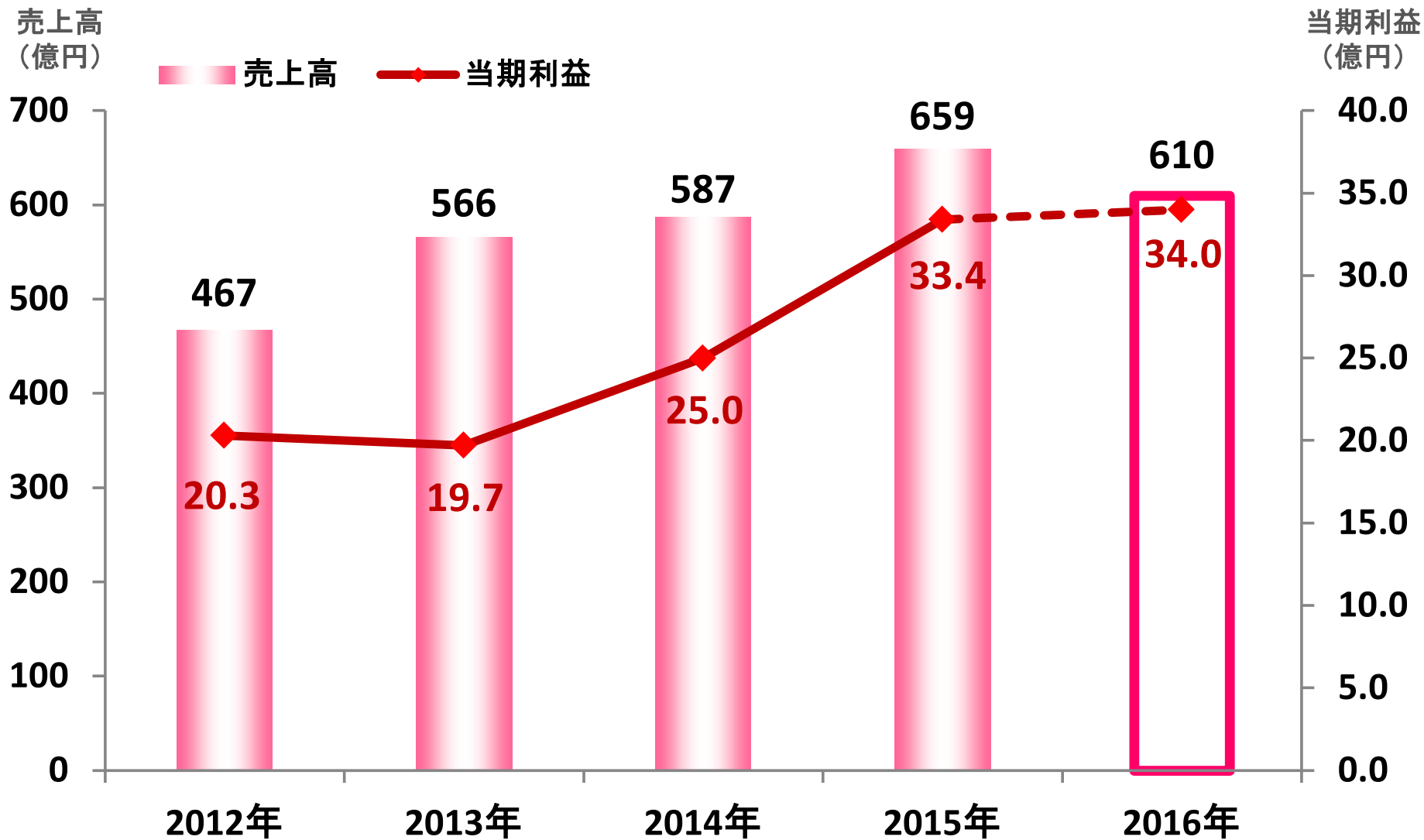


(ご参考)ワイン市場データ

➤ 米国ワイン市場は、消費量で世界第1位、生産量で世界第4位の有望な市場

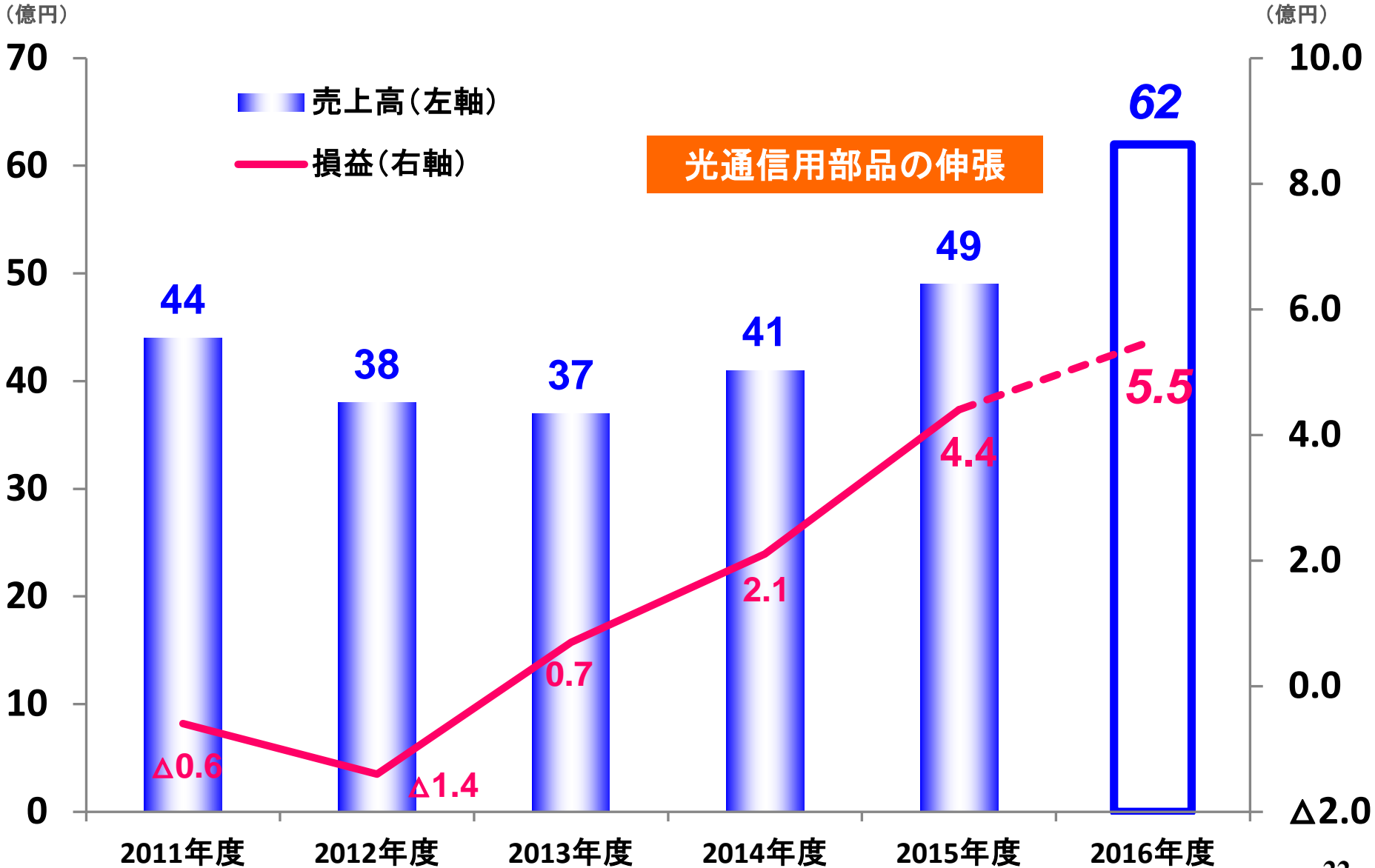


(ご参考) 海外関係会社※業績推移



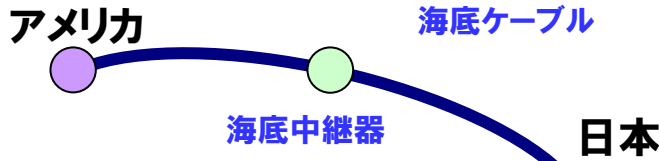
※海外関係会社 : 海外非連結子会社 及び 海外関連会社

成長戦略－ニューガラスセグメント業績推移



成長戦略ーニューガラス 光通信市場

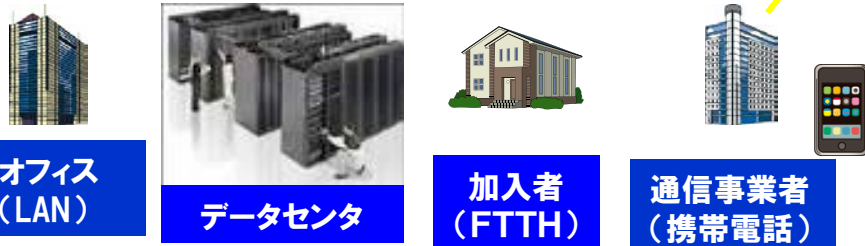
長距離通信



都市間・都市内通信

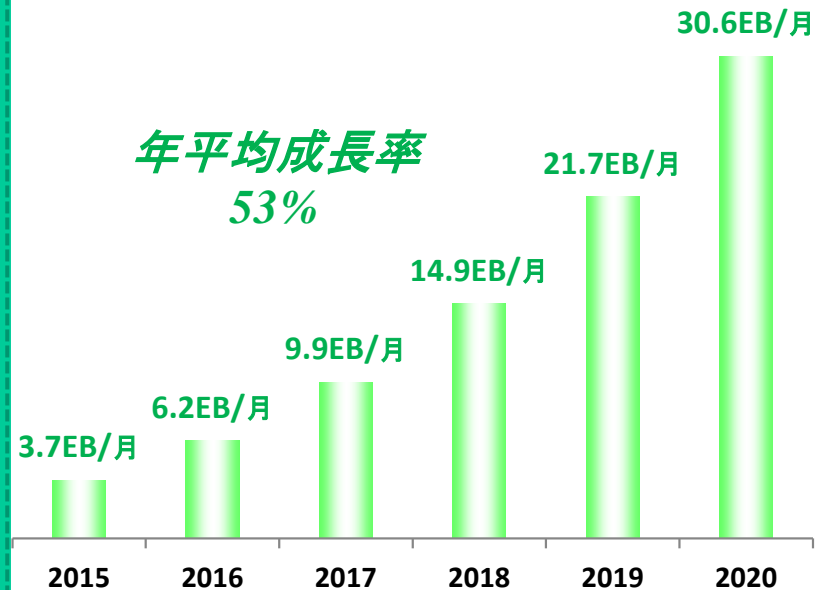


アクセス網



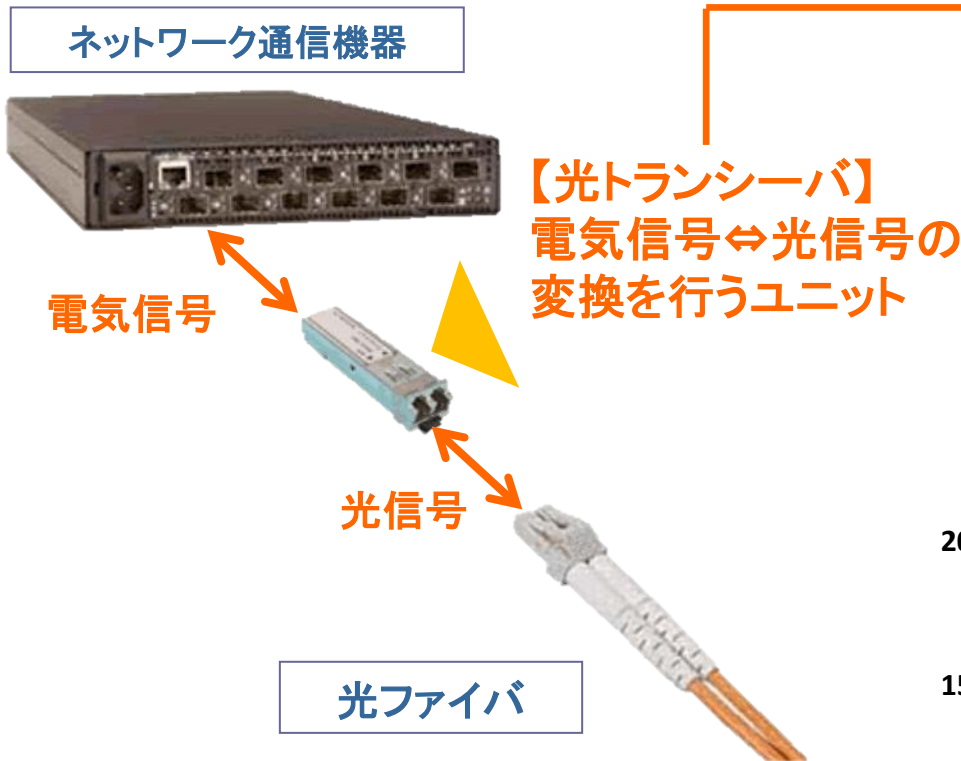
➤ モバイルデータトラフィックの急成長に伴い、光ファイバ通信の増強が必要となる

《世界のモバイルデータトラフィック予測》

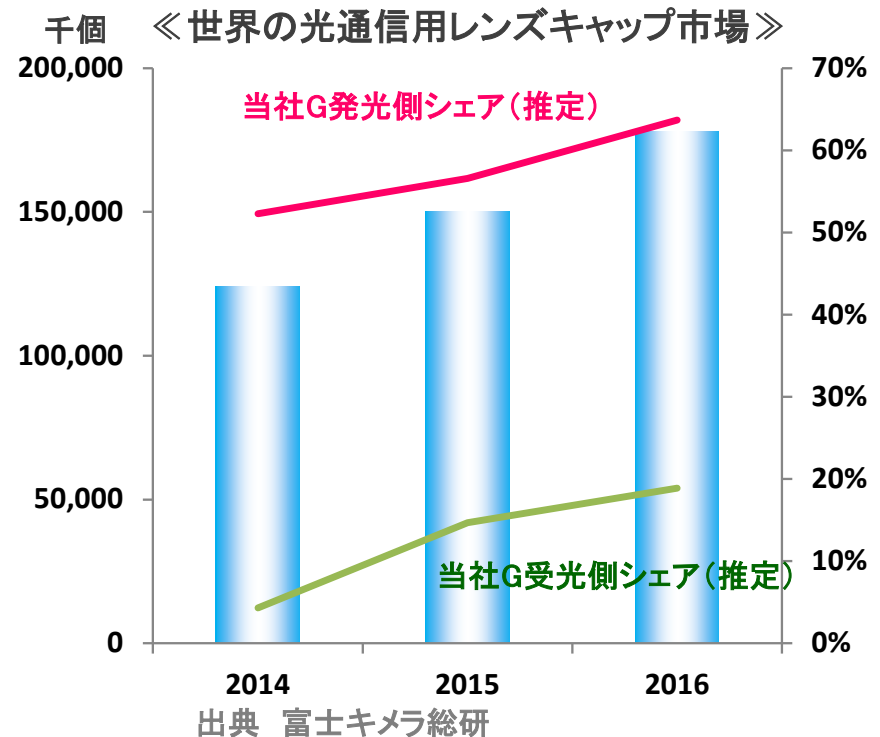


出典 Cisco Visual Networking Index
EB = Exabytes , 100万テラバイト

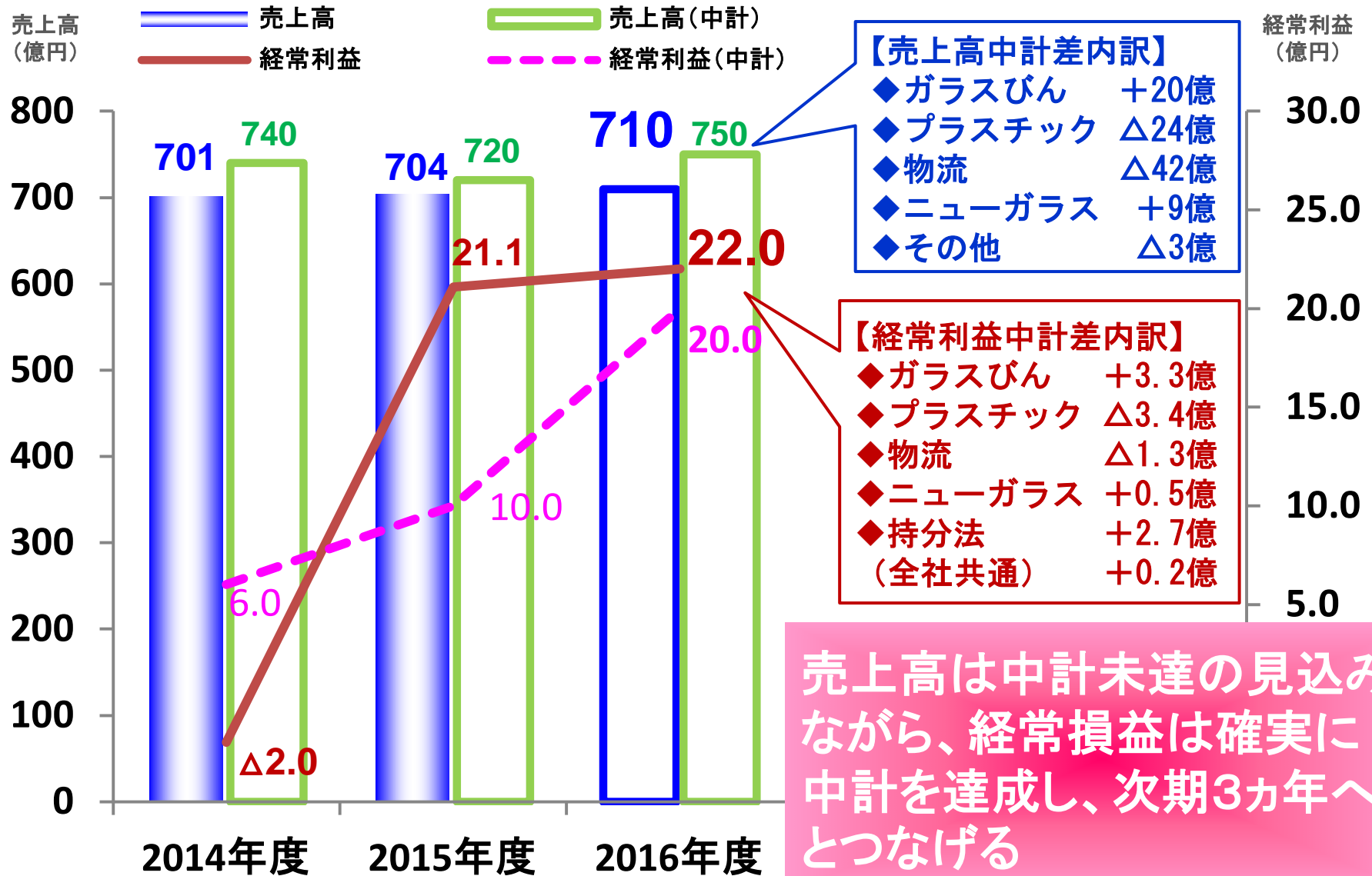
成長戦略－ニューガラス 光通信市場



➤ 急速に拡大することが見込まれる光通信市場において、得意とする発光側だけでなく、受光側も拡販に注力



連結業績推移



売上高は中計未達の見込みながら、経常損益は確実に中計を達成し、次期3カ年へとつなげる

※中計: 2014年6月5日公表数値、2016年度: 2016年5月12日公表予想数値

目次

I 2016年3月期 連結業績概要

II 2017年3月期 連結業績予想

III 中期経営計画進捗状況

IV トピックス

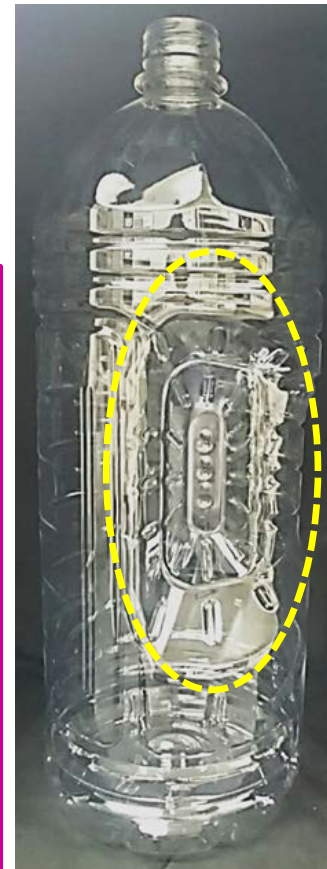
新製品開発ー大容量4Lペットボトル

《開発の背景》

これまでも軽量化が進められてきたが、従来のタイプでは、把手が別成形のため、さらなる軽量化・コストダウンが難しい状況にあった

実際の製品

開発モデル

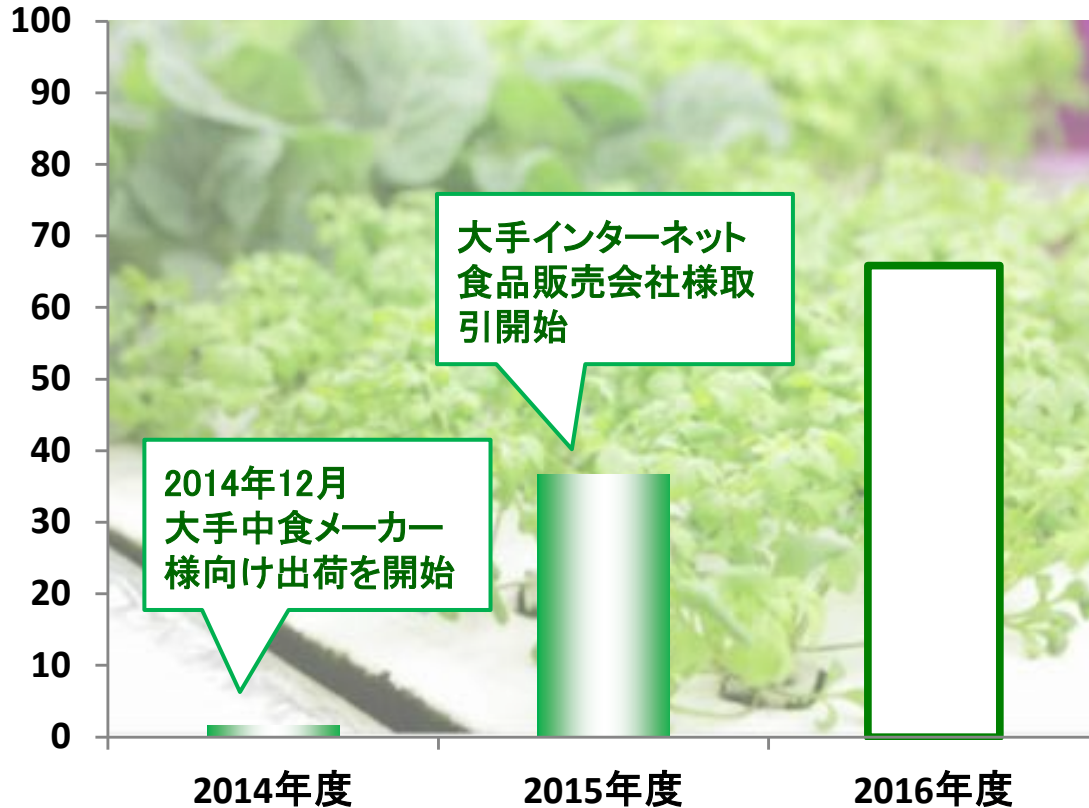


- ✓ 把手一体成形による軽量化
⇒ 従来型の134gに対し110gと18%の軽量化に成功、使用原料と二酸化炭素排出の削減に寄与
- ✓ 把手をなくす一方、持ちやすいグリップ部を開発、高いユーザビリティを実現
- ✓ サントリー様と共同開発

植物工場事業

(百万円)

《販売金額の推移》



【当面の課題】

- 既存お得意様への販売強化と新規販売先の開拓
- 生産効率改善による収益基盤確立
- 「機能性食品表示」制度に沿った“機能性野菜”の開発

Heart & Technology

 日本山村硝子株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が本資料発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づいており、当社としてその実現を保証するものではなく、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。